

認知症講座を連続開催

北見市社会福祉協議会などは24日から、認知症高齢者を支援するボランティアの養成講座を3回にわたって開く。3月に初めて開いた講座が予想以上に好評で、登録したボランティアのみならず、高齢者の家族の参加者からもさらに具体的に広範な講座内容を求める声が上がったため。市社協は「認知症への関心の高さの表れ」と話している。

(金子俊介)

324日から 3回 ボランティアを養成



誰もが暮らせる地域づくりをめざし「認知症への関心の高さの表れ」と話している。

市社協では市民のボランティア登録を受け付け、在宅の認知症高齢者の話し相手などになってもらっており、近年、派遣要望が増えている。これを踏まえ、3月の講座は、市社協が、市内のボランティア組織「高齢者110番の家」を主宰する青山由美子さんと相談し、ボランティア登録者の知識向上などを目的に企画。認知症介護指導者でもある青山さんが、認知症の人の接し方や地域での助

け合いなどについて話した。講座には、登録者35人だけでなく、想定していなかった認知症の人の家族らも含め計79人が参加。終了後のアンケートでは「講座がためになった」との感想や、より踏み込んだ講座を求める声も上がった。このため市社協は連続講座で内容の充実を図ることにした。

1回目は5月24日午後1時から。青山さんが講師を務め、認知症の症状や相談先などを解説する。2回目は6月10日午前10時からで、北見市の担当者らが認知症の人のための介護サービスについて話す。3回目は同16日午前10時からで、介護家族やボランティアが体験談を話す。会場は市総合福祉会館。無料。1回のみ参加も可能。

市社協は「誰もが認知症について深く理解できる内容。ボランティアだけでなく、多くの人が来てほしい」と話している。

症状や相談先 介護体験学ぶ

3月15日に開かれたボランティア養成講座。大勢の参加者が詰めかけた。

と呼び掛けている。申し込みは5月20日までに市社協

0157・61・818
1へ。